

域内の遺跡

【うつぼ神社】

橘公民館東側中腹にある石祠です。

「うつぼ」とは、鞘（矢を入れて携行する筒状の道具）のことで、うつぼ山には鎮西八郎為朝の館があったという伝説があり、為朝に伴った社と考えられます。

【八郎社】

列石内南西部の頂に八郎さんとよばれる祠があります。為朝を祀ったもので、毎年9月1日が祭日となっています。

【成富兵庫茂安の潮見川改修】

列石西側の抜き跡については、江戸時代初期に佐賀藩の水利治水事業に尽力した成富兵庫茂安が、潮見川（六角川）の改修にあたって、加工されていた神籠石の列石を抜いて堰に利用したとの伝説があり、実際に列石と同様な石が確認されていました。江戸時代初期まで、列石が見えていたのでしょう。

近隣の遺跡

【玉島古墳】

県内最大級の円墳で、南北48m、東西42m、高さ9m、竪穴系横口式石室をもち、5世紀末の築造と考えられています。



【潮見古墳】

潮見山の中腹にある径25mの円墳です。全長約11mの横穴式石室をもち、金銅製冠、桂甲、鉄刀、鉄鉾や青銅製の馬鐔、杏葉、雲珠など多彩・豊富な副葬品が出土しています。



上空からみたうつぼ山神籠石

▼ おつぼ山神籠石への道程 ▼



- ・武雄温泉駅から車で10分
- ・武雄北方ICから車で10分

【国指定史跡】

おつぼ山神籠石



東門付近の列石

所在地：佐賀県武雄市橘町大字大日

指定年月日：昭和41年6月21日

平成16年9月30日（追加指定及び一部解除）

指定面積：266,463.42㎡

■お問い合わせ先

武雄市教育委員会 文化・学習課

〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄5538-1

TEL:0954-23-5166

武雄市教育委員会

神籠石とは

神籠石とよばれる遺跡は、山腹に方形の切石を並べめぐらした列石とその上に版築された土塁からなる城壁をもつもので、門や水門、一部では礎石建物跡などが確認されたものがあります。

7世紀中頃に大陸との緊張関係の中で、築造されたと考えられており、『日本書紀』などに書かれた朝鮮式山城との共通点もあり、あわせて古代山城とよばれます。神籠石は、九州に10城、瀬戸内に5城、近畿に1城が確認されています。

神籠石の名は、最初に発見された久留米市高良山の列石が高良大社の霊域区画施設あるいは神が降りたつと場と考えて付けられたことにはじまります。

おつぼ山神籠石

おつぼ山神籠石は、武雄盆地の南部で橘町大字大日にあり、昭和37年に神籠石としては全国8番目に発見されたものです。昭和41年に国の史跡指定を受け、平成16年に追加指定等を受けて266,463.42㎡の指定地が確定しました。

標高66mを最高所とする低地に築かれた山城で、列石は、総延長が1866mあり、このうち北端から南西部にかけて列石が抜けて確認できないところがあります。おつぼ山を取り巻いている列石の個々の石はおよそ高さ70cm、厚さ40cmで、残石の数は1313個です。列石の前面には3m間隔で10度内傾させた柱穴があり、この柱穴を埋めるために方1mの穴が掘られていました。これらの柱穴は土塁を築くための板をおさえた柱跡、あるいは第一土塁の前面で柱穴列と列石の間に小礎石が1m間隔で発見されたことから、柱穴の柱と小礎石の柱を合掌式に組み合わせて防御柵を構成したとも考えられています。確認された柱穴のうち、第一水門前からは柱根3本が出土しています。おつぼ山神籠石に関する遺物としては唯一のものです。

列石に使用された石材は、安山岩質の凝灰角礫岩と呼ばれる石で、杵島山の各所でみられるものです。おつぼ山に近い立岩付近がその原石の採集加工地とみられています。

列石の上には幅9mの土塁があり、谷間には水門が設けられ、門跡も2箇所確認されています。土塁の基礎石としておつぼ山神籠石の列石は複雑な山の地形に応じて曲線を描いています。特に、水門の部分がおつぼ山神籠石ほど曲線を描くものは他に例を見ない特徴的なものです。



第1水門水口



第1水門



第1水門柵柱検出状況



第1水門の柵柱



第2水門水口



調査時の東門



調査時の第1土塁



第1土塁



立岩

【水門】

列石南東部水田に面した標高9m地点にある第1水門と列石南西部の谷にある第2水門があります。また、ほかの2か所に推定地が想定されています。

【門】

第1水門の西側に南門、北東部に東門が確認されています。ともに3本1対の小柱穴が確認されています。東門付近では、列石の外側に小柱穴と小礎石が確認され、柵を構成したとも言われています。

【土塁】

東門の北側で、列石の北東隅に第1土塁とよばれるところがあります。外面の列石はもとより、内面にも雑な列石を並べ、版築土塁を築いています。

【立岩】

おつぼ山神籠石の東方、杵島山の中腹にあり、列石に使用された安山岩質の大露頭があります。高さは約30mの絶壁をなしており、その下の谷間は幅も広く作業場としても適しています。おつぼ山神籠石の列石の採集加工地と推定されています。